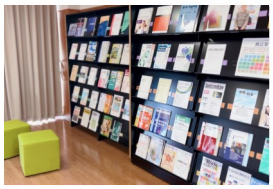
群馬県大学図書館協議会会報

# からっ風通信

2023
第50号

発行―2023年9月30日
https://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp
編集―群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会　前橋市荒牧町4-2（群馬大学総合情報メディアセンター内）TEL.027-220-7180

## PHOTO SPOT
## 群馬医療福祉大学図書館



当館は小規模ながらも、医療・福祉系の専門書を中心に収集しており、コンパクトにまとまった使いやすい図書館を目指しております。スペースが限られているからこそ、授業で利用できるDVDや学外アクセス可能な電子資料の収集に力を入れていることも特徴的です。

遠隔授業が続いた体験を通して契約電子資料の利用が伸びるなど、近年では漸くコロナ禍前の活気を取り戻しつつあります。まだまだ以前の入館者数には及びませんが、レファレンスのために気軽に立ち寄れる図書館となるよう、日々努力していきたいと思います。

## CONTENTS

■ 特集　「ビブリオバトル」の取り組み　2
■ トピック　5
■ お知らせ　5
■ 編集後記　5

# 特集「ビブリオバトル」の取り組み

昨年の全国図書館大会群馬大会の第2分科会では、高崎商科大学の学生が企画・主催したビブリオバトルについて報告がありました（当協議会共同開催）。今年はさらにビブリオバトル実施大学を増やし、「全国大学ビブリオバトル2023関東Dブロック決戦」を群馬県で開催することになりました。今号では、今年から定期的にビブリオバトルを実施する育英大学・育英短期大学図書館の取り組みを中心にご紹介します。

### ビブリオバトルとは

ビブリオバトルとは、谷口忠大氏により 2007 年 に考案された、本の紹介コミュニケーションゲームです。①発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。②順番に1人5分間で本を紹介する。③それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。④全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が１人１票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。これが公式ルールです。

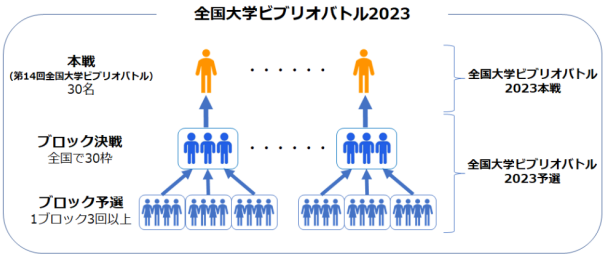
全国大会本選や予選大会レベルでは発表者（バトラー）の緊張感は大きいかもしれませんが、一般的には、数人でお気に入りの本を1冊持ち寄って、お互いに面白いと思った本を紹介しあい、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」のキャッチコピーのとおり、新たな本に出会うと同時に、本を通じて参加者同士も交流できる楽しいイベントです。

### 県内大学図書館では

共愛学園前橋国際大学では、2013年に図書館ボランティア学生の発案ではじまり、2015年9月時点で第10回ビブリオバトルが開催されたことが会報34号で報告されています。また高崎健康福祉大学では、2016年の健大祭にて図書館主催のビブリオバトルが行われた様子が報告されました（37号）。コロナ禍の2020年には、Zoomを活用してオンラインでビブリオバトルを実施した高崎商科大学の取り組みも紹介されています（45号）。そして昨年は、高崎商科大学を中心に県内の大学生有志が企画運営を担い、県内の大学在学生を対象としたビブリオバトルを開催し、全国大学ビブリオバトル地区決戦への出場者を選出しました。これまで個々の大学で行われてきたビブリオバトルを、大学の垣根を超えて学生が共同開催し、全国大会へと繋げることになりました。

### 全国大学ビブリオバトル2023

全国大学ビブリオバトルは、一年に一度、半年にわたり全国で展開される大学生・大学院生のビブリオバトルです。全国で予選が繰り広げられ、本戦では、予選を通過したバトラーが集い、究極の「グランドチャンプ本」が選ばれます。2010年から2013年は「ビブリオバトル首都決戦」、2014年からは「全国大学ビブリオバトル」として開催されています。




全国大学ビブリオバトル2023公式サイトより

＜関連リンク＞
知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト
https://www.bibliobattle.jp/home
全国大学ビブリオバトル2023公式サイト
https://zenkoku.bibliobattle.jp/univ_bibliobattle
ビブリオバトル普及委員会
https://www.bibliobattle.jp/aboutus/admission

## 全国大学ビブリオバトル2023 関東Dブロック決戦

9月4日高崎商科大学、10月11日育英大学・育英短期大学、10月26日群馬大学にて行わた予選会でチャンプ本を獲得した学生が11月3日の関東Dブロック決戦に出場します。群馬県の代表を決めるこのブロック決戦の観覧者を募集中です！

©坂本牧葉

日時：11月3日（金）13：00～15：00
会場：群馬県庁32階NETSUGEN
主催：高崎商科大学　共催：群馬県大学図書館協議会
後援：活字文化推進会議、一般社団法人ビブリオバトル協会、
　　ビブリオバトル普及委員会
観覧申込フォーム（高崎商科大学）：https://forms.gle/McEZdTMXcLp3zqD88
お問い合わせ：高崎商科大学図書館（高橋）027-347-3399（代表）

## 育英大学・育英短期大学図書館

# ビブリオバトルを毎月開催しています

当館では、今年度の4月から、ビブリオバトルを毎月開催しています。

昨年度、高崎商科大学で開催された「ビブリオバトル2022Ver.全国図書館大会群馬大会」に本学の学生が参加したことと、10月の学園祭（桔梗祭）で、初めて学内開催したことがきっかけとなり、今年度は毎月開催することになりました。

開催は、昼休み12：20～50の30分間とし、時間内に収めるため、バトラーは4人まで、プレゼン3分・ディスカッションタイム2分の「ミニ・ビブリオバトルルール」で実施しています。

毎回、開催日の2～3日前に、図書館で、参加者の顔合わせを兼ねた事前説明と発表順を決めるくじ引きを行っています。当日の司会進行は学生が担当し、会場の準備等は図書館職員が行っています。

バトラーは学生だけでなく、教員や図書館職員も参加しています。観覧（投票）参加についても、毎回、教員や事務局の職員も加わり、ディスカッションタイムを盛り上げています。

開催後は、図書館ホームページで、開催報告と参加者から寄せられたアンケート（バトラーの皆さんへのメッセージ）を公開しています。このアンケートを、参加学生は毎回喜んでくれています。また、楽しかった雰囲気を伝えるため、当日撮影した映像を40秒ほどに編集した動画を、当館SNSで毎回公開しています。

10月11日（水）には、全国大学ビブリオバトルのブロック予選を当館でも開催予定です。

ビブリオバトルは難しそうでハードルが高いと感じている学生が多いようなのですが、実際に参加してみれば、好きなものを語り、聴く、楽しいイベントです。

限られた学生の参加にとどまっていることや、観覧参加者が少ないこと等、まだまだ課題もありますが、細々とでも地道に活動を続けていくことで、読書体験を共有する喜びを、一人でも多くの学生に味わって貰いたいと考えています。

育英大学・育英短期大学図書館

ホームページ　https://www.ikuei-g.ac.jp/college/library/
Instagram　https://www.instagram.com/ikuei_library/
X（旧Twitter）　https://twitter.com/ikuei_library

### 紹介された本　★チャンプ本

【第1回】4月26日（水）
- 『i（アイ）』西加奈子著
- 『正欲』朝井リョウ著 ★
- 『美しい花言葉・花図鑑』二宮考嗣著
- 『子ども虐待』西澤哲著

【第2回】5月30日（火）
- 『特別編 ラテンアメリカの民衆芸術』鈴木紀 編
- 『熱帯』 森見登美彦 著
- 『透明な夜の香り』 千早茜 著★

【第3回】6月29日（木）
- 『学生時代にやらなくてもいい20のこと』朝井リョウ 著
- 『壊れた脳 生存する知』 山田規畝子 著★
- 『あなたとなら食べてもいい』千早茜 ほか著
- 『フローリングのお手入れ法』ウィル・ワイルズ 著

【第4回】7月19日（水）
- 『正反対な君と僕』 阿賀沢紅茶 作
- 『ハマータウンの野郎ども —学校への反抗・労働への順応』 ポール・ウィリス 著★
- 『コメントする力』 竹田 圭吾 著
- 『おいしいごはんが食べられますように』高瀬隼子 著

【第5回】8月31日（木）
- 『雪のひとひら』ポール・ギャリコ 著 矢川澄子 訳
- 『サンドイッチ　サンドイッチ』小西英子 作
- 『とりつくしま』東直子 著★

## 参加者の声　育英大学・育英短期大学 ● ビブリオバトルアンケートに寄せられたコメント（抜粋）

### バトラー（発表者）へのメッセージ

・常識や価値観を覆すような、面白い読書体験が出来そう。とても興味がわいた。（『正欲』朝井リョウ著）
・香りや味覚の表現に焦点を当てたプレゼンでとても引き込まれる発表でした。忙しい人に読んでもらいたいという発表者さんの言葉がとても印象的でした。（『透明な夜の香り』 千早茜著）
・問題児といわれていた同級生とたまに話がかみ合って、嬉しくなったことを思い出しました。彼らが何を大事にしていたのか、考えたくなりました。（『ハマータウンの野郎ども』 ポール・ウィリス 著）
・闘病記や病を扱った作品は読んだ後つらくなることが多かったのですが、医師としての冷静な分析や、明るく前向きな文章と聞いて、手に取ってみたくなりました。（『壊れた脳 生存する知』 山田規畝子 著）
・物語の切ない背景の中に、どうしてそんな場所にとりついたのか…というシュールさがありました。読み終わった後どんな気持ちにさせられるのか、気になる1冊です。（『とりつくしま』 東直子 著）

### 参加者の感想

・選んだ本やプレゼンの様子から発表者さんたちの人柄が見えてきて、とても面白かったです。本を読んでも自分の中だけで完結することが多かったので、みんなで本の魅力を共有できるのは楽しいことだなと思いました。（第1回）
・読書離れといわれている現代の学生が、このように継続的に活動していることに感銘を受けました。非常に意義ある活動だと思いました。（第2回）
・今回紹介された全ての本を読んでみたいと思いました。自分の守備範囲以外の本に目を向けるきっかけを与えてもらえるよい企画だと思いました。（第3回）
・初のビブリオバトルを見て、全く本を読んでいないので少し読んでみようかなという気になりました。（第4回）
・読んだことがある本でも、プレゼンを聞いて共感したり気づきがあったりと、とても楽しい時間でした。昔好きだった本を読み返したくなりました。（第5回）

## 参加者の声　高崎商科大学 ● 企画運営スタッフ学生の振り返りワークシートから（抜粋）

昨年実施された「ビブリオバトル2022 Ver.全国図書館大会群馬大会」の企画運営を担当した学生のコメントです。

参加大学：育英大学・育英短期大学、前橋国際大学、
高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部

### 企画運営スタッフに参加した理由

・今まであまり本を読んでこなかったため。
・ビブリオバトルに興味があった。
・自分の好きな本の魅力を伝えたかったから。
・ほかの人が紹介する本を知りたかったから。
・イベントの運営をやってみたかったため。
・他大学の学生と交流したかったため。
・高校生の時にビブリオバトルに参加し、また参加したいと思ったから。
・大会運営に興味があったから。

### 活動の感想

・本の魅力に気づくことができた。
・初対面の方とも本を通して仲良くなることができた。
・プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についた。
・日頃本を読む人が周囲にいないため、本の好きな人と話ができてよかった。
・大会運営のためのファシリテーションスキルを身につけることができ、今後に活かしていけそうだと感じた。
・運営側で参加してやることがたくさんあって大変だと感じた。
・運営に参加したことで、他大学の学生も含め関わることができ、貴重な経験となった。
・動画作成に挑戦でき、図書館大会に関わることができたことで達成感があった。
・司会を担当し、周囲を巻き込みながら大会を盛り上げる難しさを知った。
・人前で何かをすること自体が久しぶりで、純粋に楽しかったし、嬉しかった。
・スタッフ間での仲間意識が芽生え、友好的に交流でき嬉しかった。
・もっと多くの参加者が集められるようにしたい。
・自分の大学でもビブリオバトルの存在を教えてあげたい。

## トピック　群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館

# 「歴代上毛かるたと群馬のかるた展」を開催中です

中央図書館にて、「歴代上毛かるたと群馬のかるた展」を10月29日（日）まで開催しています。

上毛かるたは、戦後まもない昭和22（1947）年に制作され、昭和43（1968）年に絵札全札が描きかえられ現在に至りますが、初版からこの現行版との間に、異なる絵柄の絵札（改訂版）が現存しています。上毛かるた研究家の田村聖志さんから初版と改訂版をお借りし、3種類の絵札変遷を見比べられる展示を行っています。初版や改訂版は素朴ながらデザイン性があり可愛いらしい印象でを受けます。ほかにも、英語版の上毛かるたの読み札も3種類並べ、訳者による読み札に込められたニュアンスの違いを見比べることができます。名詞が並び、しかも七五調で情報量も少ない読み札をどう訳すか、比較することで工夫と苦労が見えてきます。

また、会場には「前橋かるた」「高崎かるた」「改訂きりえ沼田かるた」「嬬恋かるた」など、県内8種類の郷土かるたも全札展示し、これらを辿りながら答えを見つけるクイズラリー（アンケート付き）も用意しました。このクイズラリーの参加者全員にはオリジナルガチャを１回して景品がもらえるようにしました。学生たちはこれを面白がってくれて、順調に観覧者アンケートも集まっています。「自分の住んでいる地域にもかるたがあったことを初めて知った」、「地域の中にこんな文化や歴史があることを知って興味深い」といった感想が寄せられています。

郷土かるたは、地域の誇る文化や歴史を改めて知ることができ、また遊びを通して子どもたちへ伝えることができるツールです。当館の郷土かるたコレクションでは日本全国の郷土かるたを収集していますが、続々と制作されている郷土かるたのお手本として、かるたの制作元からは今でも「上毛かるた」の名が挙げられています。上毛かるた文化の根付く群馬県で、この郷土かるたの魅力や価値を発信し、継承していくことを大切にしたいと思っています。

## お知らせ　第20回群馬県図書館大会

11月30日（木）に第20回群馬県図書館大会が開催されます。群馬県内では昨今、前橋市、高崎市、太田市、藤岡市にて新図書館建設に向けた構想・計画が進み、県立図書館の在り方も検討されています。今大会では、県内外の図書館づくりに関する最新動向について報告される予定です。ぜひご参加ください。

日　時　　令和5年11月30日（木）11:00～16:30

会　場　　群馬県立図書館3階ホール（前橋市日吉町1－9－1）

動画配信　令和5年12月12日（火）～令和6年1月31日（水）

※県公式YouTube「tsulunos」にて限定配信

対面、オンラインでのハイブリッド開催予定。詳細は、メーリングリストにてご案内します。

**編集後記**

今号から編集委員として参加させていただくことになりました。今年度はビブリオバトルを始め、協議会の活動を通して大学図書館員の皆さまと情報交換できることが学びとなっています。どうぞよろしくお願い致します。

（高崎商科大学図書館　高橋美樹子）